平成 30 年 3 月 22 日
市議会全員協議会 資料№11

牧野飯田市長のドイツ訪問報告について

1 訪欧目的

東京に拠点を持つドイツの研究機関である「ドイツ日本研究所」からの招聘により、ドイツの人文・社会系研究を促進する団体である「マックス・ウェーバー財団」（Max Weber Stiftung）が主催する国際会議「ウェーバー・ワールド・カフェ」（WeberWorldCafé）に出席し、話題提供者として発表し討論に参加した。なお、今回の表題は「人口動態の変容に対する地方自治体の挑戦」（Demographic Change ― Challenges and Answers for Local Communities）であり、その中で飯田市長は地方行政、介護の在り方や方向性に関し、飯田市の先進的な取り組みについての事例発表を行った。

2 行程及び往訪先

訪欧期間：平成 30 年 2 月 28 日（水）～3 月 2 日（金）

2/28　早朝　ドイツ・フランクフルト空港着

午後　シンポジウム出席

① テーブルディスカッション第１ラウンド：地方自治

② テーブルディスカッション第２ラウンド：医療福祉ケア

3/1　午前～午後　ドルトムント市内視察

① ウェストファーレンハレン（コンベンション施設）

② ウィルヘルム・ハンスマン・ハウス（シニアセンター）

夕方　ドルトムント発→フランクフルト着

3/2　午前　フランクフルト空港発

ドルトムント旧市庁舎前にて

左より
吉田 浩 氏（東北大学教授）
フランツ･ヴァルデンベルガー氏（ドイツ日本研究所 所長）
牧野市長
ハノ・イェンシュ 氏（ドイツ日本研究所 専任研究員）

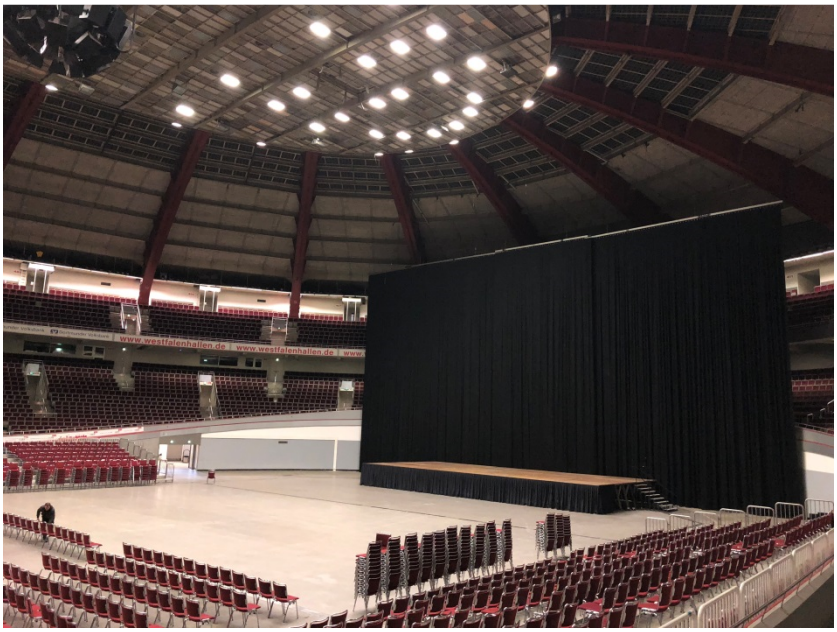
ドルトムント市副市長のビルジット・イェーダー氏（牧野市長の右隣）と

第１ラウンド第１テーブル（テーマ：「地方自治」）でプレゼンを行う牧野市長

コミュニティの質（QOC）の重要性を、千代しゃくなげの会の事例とともに説明した。

第２ラウンド第１テーブル(テーマ：「医療福祉ケア」）でプレゼンを行う牧野市長

多様な取り組みを可能にする条件として「共創の場」に注目し、飯伊地区包括医療協議会による救急医療体制と ism-Link の紹介をした。



Westfalenhallen Dortmund

　左の写真が収容人数 16,500 人の多目的屋内ホール。
　メッセ（展示場）としての活用の他、フィギュアスケートやアイスホッケーの国際大会で使用されているほか、著名な音楽アーティストがコンサートを行っており、ヨーロッパの主要なイベント会場の１つである。
　現在の建物は戦後のものだが、もとは 1925 年に建てられた歴史のある施設である。
　この他にも 10 ホールあり、全ホールの延床面積は 52,900 ㎡。

Signal Iduna Park
〔ジグナル･イドゥナ･パルク〕

　ドイツ・ブンデスリーガ・ボルシア・ドルトムント（サッカー）のホームスタジアム
　収容能力　80,720 人
（座席：55,700 人、立見：25,020）
1974 年、2006 年に FIFA ワールドカップの会場となった。

Wilhelm - Hansmann - Haus

50 歳以上のドルトムント市民を対象にしたシニアセンター。音楽、ダンス、ヨガ、工芸、語学学習、パソコン、その他様々な活動を通して市民交流が活発に行われている。